

スーパーマーケット景気動向調査

2024年1月調査結果（12月実績）
（2024年1月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は堅調

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.3の50.9となり、6ヵ月連続で好不調の判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は、前月から-0.5の47.3と前月水準から大きな変化は見られなかった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月水準で推移した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは高水準で推移しており、販売価格DIに動きはみられなかった。来客数DIは前月に比べやや上昇し、客単価DIは前月よりややプラス幅を縮小する結果となった。カテゴリ動向調査では、クリスマス商戦、年末商戦の堅調を背景にプラス域で推移したカテゴリが多いものの、相場高で伸び悩んだ畜産DI、衛生用品の反動減が続く非食品DIはマイナス域での推移となった。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、基調に大きな変化はなく、全般的にほぼ前月水準で堅調な推移が続いている。販売価格が上昇する中でも消費者の購買意欲は比較的堅調で、買上点数の減少は抑えられており、景気判断DI、消費者購買意欲DIは高水準を維持している。（長期傾向についてはP11参照）

気温が冷え込みを見せた下旬のクリスマス商戦と年末商戦は、曜日巡りによる大型商業施設への流出や旅行、外食の増加を指摘する声も多かったが、帰省客増加の恩恵を受けた地域もあり概ね好調に推移した。節約志向による内食傾向もみられ追い風となっている。一方で、好調を牽引してきた惣菜の伸び鈍化傾向や畜産カテゴリの不振を懸念する声も聞かれる。単価増の恩恵が一巡する2024年は、今後どのように売上や利益を確保していくか、次の一手を着実に実行すべき、正念場の1年と言えよう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：50.9 (-0.3) 前月：51.2	消費者購買意欲DI 当月：49.8 (+1.2) 前月：48.6	周辺地域 競合状況DI 当月：46.9 (+1.3) 前月：45.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：49.5 (-0.1) 前月：49.6
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：47.3 (-0.5) 前月：47.8	消費者購買意欲DI 当月：46.3 (+0.6) 前月：45.7	周辺地域 競合状況DI 当月：44.6 (+0.8) 前月：43.8	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.0 (-0.3) 前月：48.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：8.1 (-0.6) 前月：8.7	客単価DI 当月：12.7 (-2.6) 前月：15.3	来客数DI 当月：-2.3 (+4.0) 前月：-6.3	
収益DI 当月：9.8 (-0.1) 前月：9.9	販売価格DI 当月：23.9 (0.0) 前月：23.9	生鮮品仕入原価DI 当月：17.6 (+0.9) 前月：16.7	食品仕入原価DI 当月：20.8 (+0.3) 前月：20.5

カテゴリ動向

青果DI 当月：17.0 (+1.2) 前月：15.8	水産DI 当月：9.4 (+6.4) 前月：3.0	畜産DI 当月：-9.6 (-7.7) 前月：-1.9	
惣菜DI 当月：11.1 (+1.4) 前月：9.7	日配DI 当月：13.1 (-1.8) 前月：14.9	一般食品DI 当月：5.5 (-2.7) 前月：8.2	非食品DI 当月：-8.1 (-3.2) 前月：-4.9

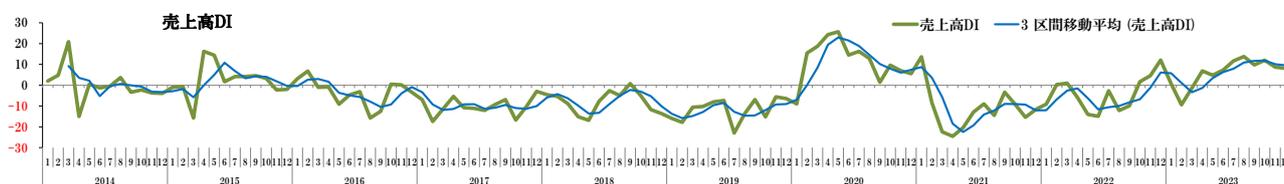
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から横ばい推移で、プラス圏を維持

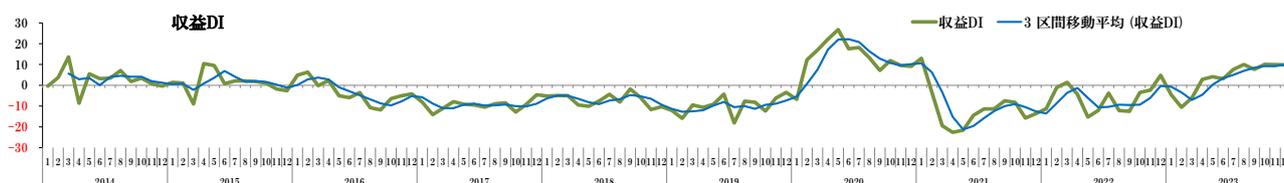
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	3.9	18.0	27.0	41.6	9.6	8.7
売上高 (当月)	3.8	18.1	30.0	38.1	10.0	8.1



2. 収益DI

前月から横ばい推移で、プラス圏を維持

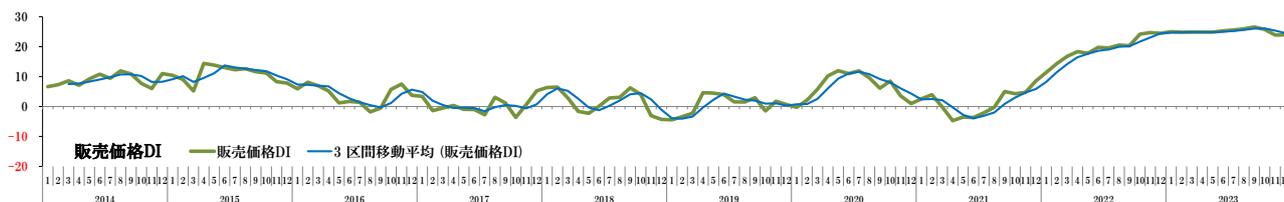
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	1.7	17.6	34.7	31.3	14.8	9.9
収益 (当月)	2.6	17.4	31.6	34.8	13.5	9.8



3. 販売価格DI

前月から横ばい推移で、引き続き高水準で推移

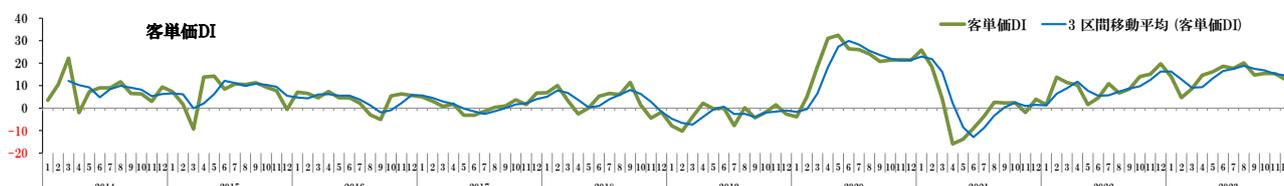
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.7	15.2	69.1	14.0	23.9
販売価格 (当月)	0.0	0.0	18.0	68.3	13.7	23.9



4. 客単価DI

前月から小幅に下落も、二桁プラス水準を維持

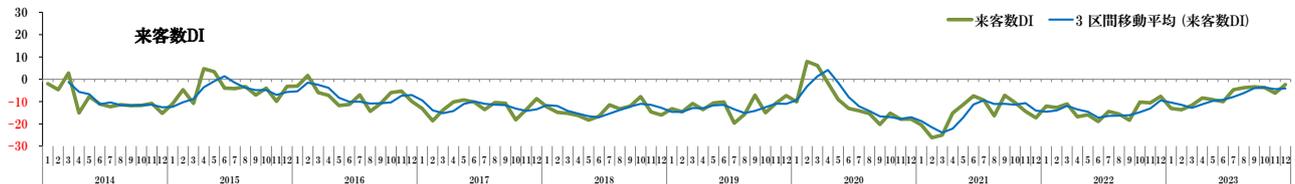
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	6.8	27.3	61.4	4.0	15.3
客単価 (当月)	0.6	11.9	27.0	56.6	3.8	12.7



5. 来客数 DI

前月から小幅に上昇し、マイナス幅を縮小

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.5	37.5	27.8	22.7	3.4	-6.3
来客数 (当月)	6.3	29.4	35.6	25.0	3.8	-2.3



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい推移で、二桁プラス水準

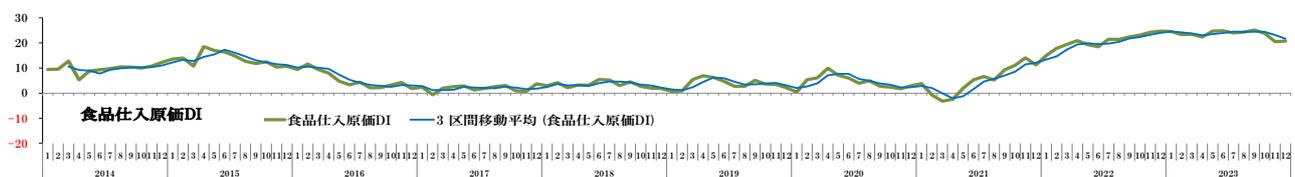
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.7	4.1	29.1	55.8	9.3	16.7
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	3.2	26.5	64.5	5.2	17.6



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい推移で、32 か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	5.2	20.3	59.3	14.5	20.5
食品仕入原価 (当月)	0.6	3.9	18.2	66.2	11.0	20.8

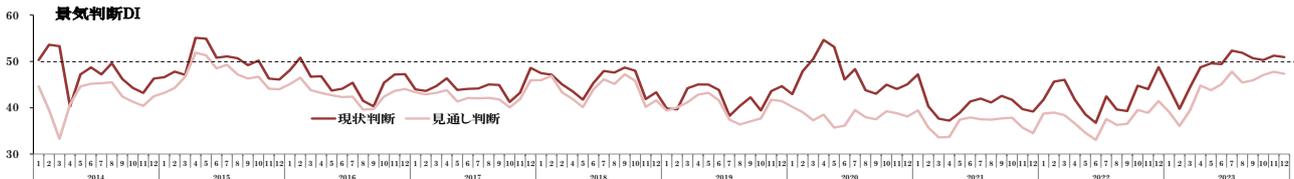


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は前月水準を維持、6か月連続で50台

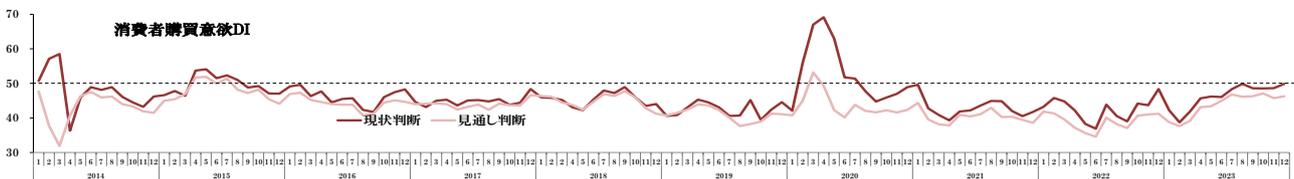
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.6	12.7	68.5	17.7	0.6	51.2
【現状】景気判断 (当月)	0.6	13.6	67.9	17.3	0.6	50.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.7	19.9	64.1	14.4	0.0	47.8
【見通し】景気判断 (当月)	1.3	20.6	66.3	11.3	0.6	47.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に上昇

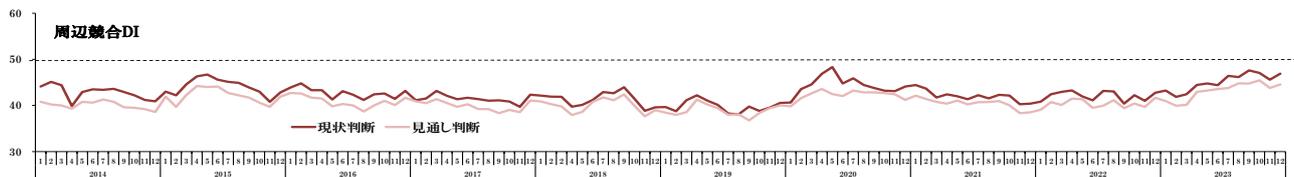
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	18.2	65.7	14.9	0.0	48.6
【現状】購買意欲 (当月)	0.6	16.0	67.3	15.4	0.6	49.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.6	25.4	64.6	9.4	0.0	45.7
【見通し】購買意欲 (当月)	1.2	20.5	70.8	6.8	0.6	46.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に上昇

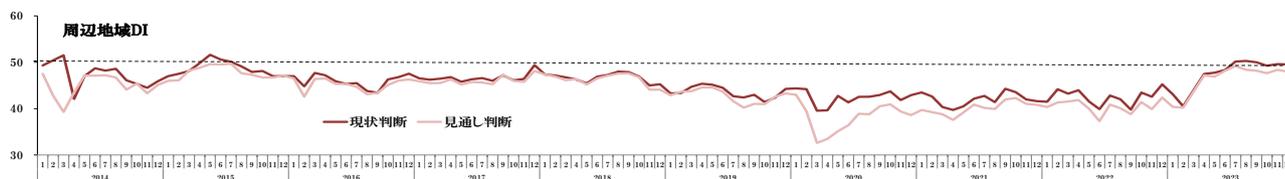
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.7	21.0	71.3	5.5	0.6	45.6
【現状】競合状況 (当月)	1.9	14.3	78.9	4.3	0.6	46.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.3	22.7	69.6	4.4	0.0	43.8
【見通し】競合状況 (当月)	3.7	19.9	71.4	4.3	0.6	44.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.6	9.4	81.2	8.8	0.0	49.6
【現状】地域景気 (当月)	0.6	7.4	85.2	6.8	0.0	49.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	14.9	76.8	8.3	0.0	48.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	11.3	83.8	4.4	0.0	48.0

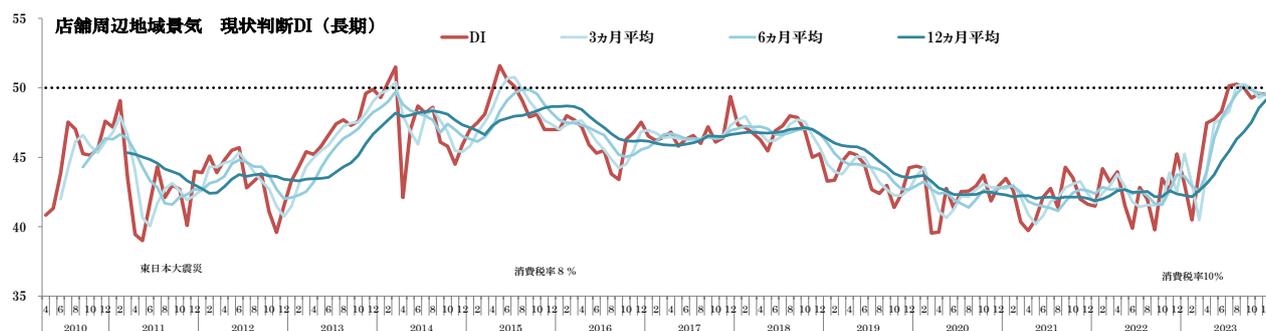


・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断 DI は、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14年4月の消費税率 8% への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。

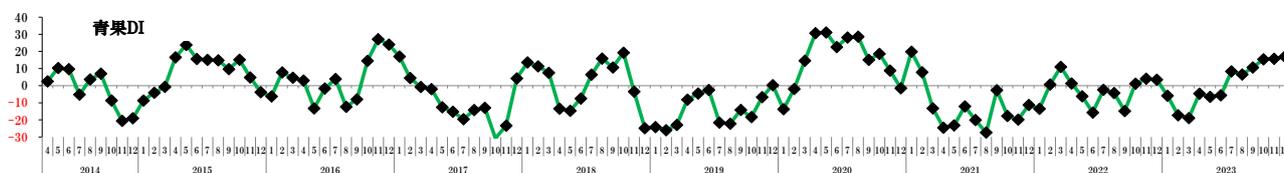
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である 50 を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：17.0（好調）

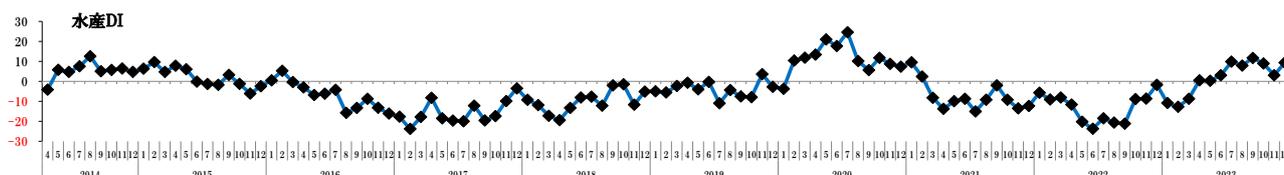
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.8	12.9	24.6	42.1	18.7	15.8
青果（当月）	0.7	12.4	24.8	42.5	19.6	17.0



青果相場は中旬以降落ち着いたものの、買上点数が順調に推移し、客単価の上昇により好調となった店舗が多かった。なかでも白菜やネギ、キノコなどの鍋関連野菜が好調に推移した。前年価格が高騰した玉ねぎなどの土物類には反動がみられたが、大根をはじめとする根菜類は年末商戦を中心に好調となった。国産果実ではみかんをはじめとする柑橘類が特に好調となった。相場高のイチゴは好不調の判断が分かれ、りんごやぶどうなどは不調とするコメントが多い。輸入果物ではバナナの動きがよかった。

2. 水産DI：9.4（やや好調）

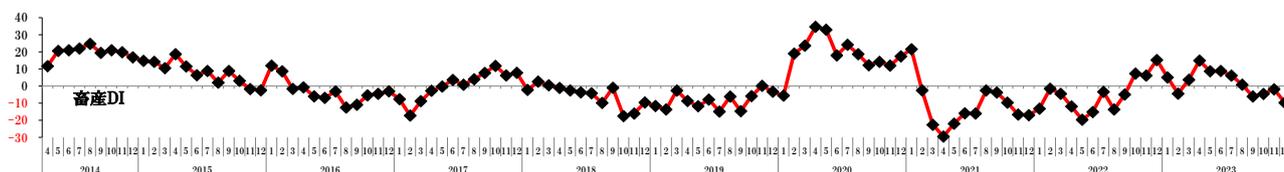
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	5.2	24.9	31.8	28.9	9.2	3.0
水産（当月）	1.3	25.0	21.7	38.8	13.2	9.4



全般的に相場が落ち着いた傾向にあり、販促しやすい環境に変化し、好調な販売動向となった。年末商戦では、本マグロなどの高品質な刺身盛り合わせ、カニやイクラなどが特に好調に推移した。ブリやタラ、サーモンも販売しやすい価格で好調、塩干類も順調に推移した店舗が多い。予約販売やギフトの好調を指摘するコメントも多い。うなぎ類は相場高で不振、カキを中心とした貝類は動きが悪かった。

3. 畜産DI：-9.6（やや不調）

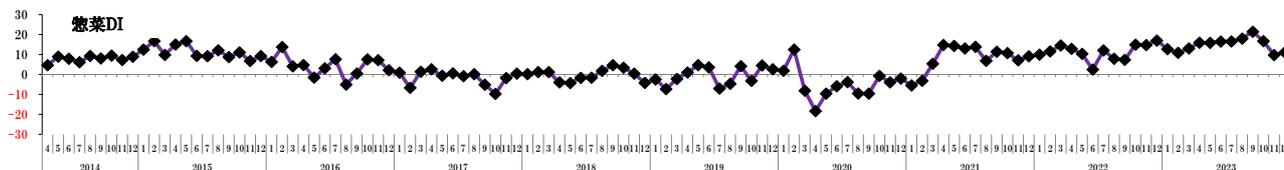
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	7.5	28.7	31.6	28.2	4.0	-1.9
畜産（当月）	10.5	42.5	24.2	20.9	2.0	-9.6



精肉全般で相場高傾向が続く中、牛肉から豚肉や鶏肉へ需要がシフトする流れが継続。前年鳥インフルエンザからの反動もあり、相場が安定している鶏肉が最も好調に推移した。気温が高めに推移した地域を中心に鍋関連の需要の低迷を指摘するコメントもみられた。牛肉は年末商戦でのしゃぶしゃぶ、すき焼き用のブランド牛、和牛は売上を確保した店舗が多いが、それ以外は全般的に不振となった。豚肉も国産、輸入ともに高値で伸び悩んだ。ハムやソーセージなどの加工肉も、引き続き動きが鈍い。

4. 惣菜DI：11.1（好調）

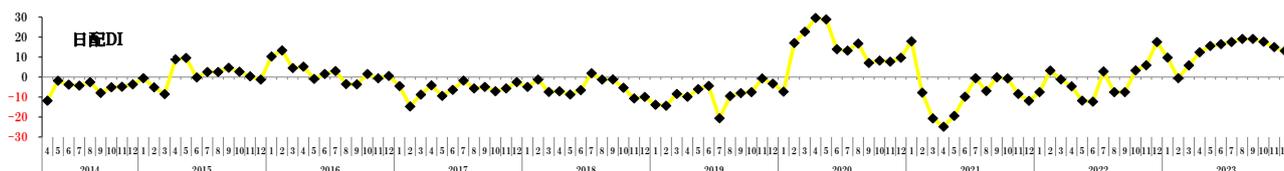
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.2	15.1	27.3	40.1	12.2	9.7
惣菜（当月）	2.6	18.5	25.2	39.1	14.6	11.1



曜日巡りのよかったクリスマス商戦、帰省客が増加を背景とした年末商戦の好調を指摘するコメントが多い。おせちやオードブル、ローストチキンなどが予約販売を含め好調に推移した。天ぷら、コロッケなどの揚げ物類は引き続き好調だが、平時の米飯類や惣菜は好調が一巡し、伸び率の鈍化傾向を指摘するコメントもみられた。寿司類は水産カテゴリーでの刺身類の好調により伸び悩んだというコメントもみられた。

5. 日配DI：13.1（好調）

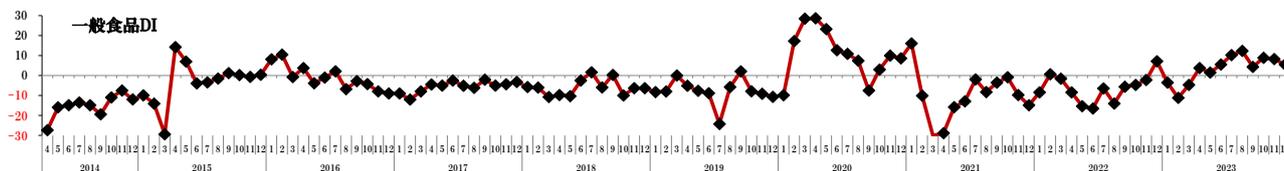
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.3	10.9	28.2	42.0	16.7	14.9
日配（当月）	2.0	13.1	30.1	40.5	14.4	13.1



値上げの影響が大きいカテゴリーであるが、買上点数の減少は抑えられており、一品単価上昇により好調な動向が続いている。おせち関連を中心とした年末・正月商材は単価が上昇したものの、好不調の判断が分かれている。価格再改定のあったパン類は特に好調、牛乳など乳製品も堅調に推移した。鶏卵は相場が落ち着きはじめ好調持続、冷凍食品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群も堅調に推移した。鍋関連の水物や練物、麺類は、上旬から中旬にかけての暖冬の影響で伸び悩んだ地域もみられた。

6. 一般食品：5.5（やや好調）

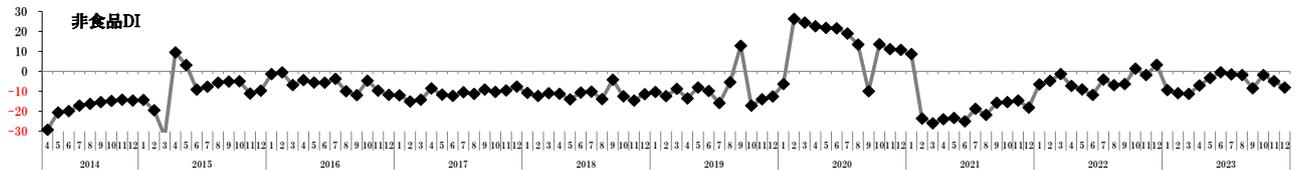
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	2.9	22.5	25.4	37.0	12.1	8.2
一般食品（当月）	3.3	23.8	27.8	37.7	7.3	5.5



全般的に販売価格上昇による買上点数の抑制傾向がみられるものの、年末商戦では前年より販売数量が伸長したとのコメントが多い。気温が高めに推移した地域が多く、鍋つゆやスープ、シチューなどのホットメニュー、コーヒーなどのホット飲料は好不調の判断がわかる結果となった。米類は回復傾向がみられ、正月用の餅も好調に推移した店舗が多い。酒類は酒税法改正の影響で新ジャンルが影響を受けたほか、競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-8.1（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.0	26.9	35.9	19.2	6.0	-4.9
非食品（当月）	9.5	39.2	31.1	14.9	5.4	-8.1



気温が高めに推移した地域が多く、カセットボンベや紙皿、カイロなど冬物商材の動きが鈍い。マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品も需要低下傾向が続く。単価が上昇したトイレトーパー・キッチンペーパーなど紙製品は好調に推移した。前年、大雪で買いだめ需要が発生した地域では反動減もみられた。家庭用洗剤は値上げで単価上昇の一方、ドラッグストアなど競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2024年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 年末・クリスマス商戦好調
2. 客単価増
3. 高い気温による影響

（参考）2023年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 年末・クリスマス商戦好調
2. 価格高騰による買上点数減
3. 帰省客・旅行客の増加

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12月実績速報版 162社
 11月実績確報版 181社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp